踏　み　跡　＜　My　mountains　＞

奥多摩	川苔山（ 川乗山 ）からミツドッケ	No.014

昭和37年11月2日
石川・高橋と三人の旅。青梅線の最終電車に乗るべく東京駅に集合して21:36 に出発。
石川は姉ちゃんの連れ合いに足りないものを借りてきたというにわか仕立て。私は寝袋を持ち始めた頃だったかもしれない。二人はそこかしこから装備を調達してきたという。
立川着は 22:40、23:16 発の氷川行最終電車に乗り、車内で 11 月3日を迎えた。

昭和37年11月3日
（文化の日）
川井駅に 0:19 に到着。
11 月の夜はもう寒い。
0:45 暗闇の中で出発。
青梅街道を西へ歩き始めたのだが、大丹波川の谷沿いに入るべき道を見落としてしまい古里（こり）まで行って気がついた。戻る途中で通りがかった地元の人が車に乗せてくれたのでロスタイムは最小限で済んだ。大丹波川を遡り、蝉沢橋（1:40）で
5 分休憩、棒ノ折山登山口の百軒茶屋（2:55）で 5 分休憩。曲ケ谷の分岐点に 5:00 に到着。ここからが最後のツメになる。
源流近くの杉林の中に建つ獅子口小屋に着いたのが日の出も過ぎた6:00。5時間の闇の世界に別れを告げて、ゆったり朝食を食べて、出発は 7:30。昭和60年頃の登山情報を見ると「獅子口小屋跡」と記されているので、この間の20余年の間になくなったようだ。
いよいよ山道に入る、と言っても踊平への急登は僅か10数分。その先もさしたる起伏もない穏やかな稜線。朝の静かな川苔山頂上（1363.7m）に 8:50 に到着。東西南北に木の根のように尾根を張り出している川苔山は、そこに建っていても「大きさ」を感じる。
10 分の小休止を経て南面の舟井戸小屋へ下る。小屋に着いた途端に突然大粒の雨が降り始めた。時計を見ると 10:00、無人の舟井戸小屋は雨宿りする人が後から後から詰めかけて満員になってしまった。
ストーブも真っ赤な炎を巻き上げている。昼食はインスタントラーメン2個。夕刻になるに従って雨宿りの連中も諦めて三々五々下山して行き、結局我々三人だけが残った。
ところが、実際は我々だけではなく、どこから来たのか犬が一匹人なつっこそうに尾を振って笑っている。追っ払っても平気な顔で尾を振っているので、段々かわいくなってついに同居することになった。腹が減っているだろうと思い手持ちの菓子をやったが、これがいけなかった。我々が乏しい夕餉の座に着くと、彼は膝元にへばりついて離れない。
15:30、止む無く小屋の柱に縄で縛りつけておいて夕食。御飯を炊いてキャベツとネギの味噌汁にサバミソ缶詰、ソーセージ、タクアン、わさび漬。
17:00、無事食事を済ませることができて就寝準備に入ったのだが、犬を餓死させることはできぬと残飯を

集めて食事をさせてやることにした。
明日のために寝なければならないので、寝袋を広げて寝支度に入ると、彼は我々の無愛想な態度に気づき、ヒーヒーと泣きながら訴えだした。これでは安眠できない。
彼には気の毒だが小屋の外に出てもらうことにした。小屋の外に誘導するには相当のテクニックを要した。とにかく雨上がりで霧が晴れ行かんとしている谷間の美しさなど眺めていられないほどの速さで・・・。
寝袋に入ってしばらくは戸板に体当たりしたり、前足で引っかいたりする悲痛な反撃がヒーヒーという泣き声とともに聞かれたが、やがて静かな闇の夜となった。我々も夜行の疲れで、間もなく深い眠りに落ちた。

昭和 37 年 11 月 4 日
小屋の屋根上の異様な響きに目が覚めた。犬の道徳（どうとく・・・なぜか学校の教師の仇名がついた）君が屋根の上を駆け回っている。ワンワン吠えながら屋根の端まで走り、あわてて止まろうとしてブリキの屋根を鮮やかな爪音を立てて滑り落ちたり、時には一間ほど下の地面に叩きつけられたり、屋根の上を走り回っている。時計を見ると 5:45、少々寝坊したもののさほど寝過ごさずにすんだのも、この騒音のおかげだった。
小屋の戸を開けると、屋根上を走りぬけて裏山に飛び降りた後足元まで近寄ってきた。そしての親愛の情を込めた笑顔で我々の顔を覗き込んでいる。彼は、朝の雨上がりの空気の美味しさを一人で味わうのは勿体無いというわけで、我々を起こすためにデモンストレーションをやってくれたのに違いない。朝食も御飯を炊いて味噌汁を作り、クジラ・サンマなどの缶詰がおかず。
5:00 起床、8:00 出発の予定だったが、ほぼ予定どおり8:15 に出発。
小屋から北へ登り返して、昨日通った川苔山の山頂へ。

（左：川苔小屋にて）
（右：川苔山山頂）
・・・石川が撮影した
ものと思われる

さらに北へ進み踊平から県境稜線に向かう。先頭は石川、次に高橋、そして四本足の盟友、その後に私。犬は時々右や左の薮に入ってしまい、しばらく姿を消したかと思うとまた適当なところで列に戻ったりして、自分の特技を披露してくれる。時には先頭に立って先達をも務めてくれる。非常に親切な先達で、後についていく我々との間に5mほどの距離ができると、立ち止まって振り返り尾を振って待っていてくれる。ついに彼は、強引とも言えるような友情の押し売りの形で我々のパーティに加わってしまった。
日向沢峯（ひなたざわのうら）の南点 9:27、5分の小休止をとり日向沢峯頂上に 9:55 分到着。ここは埼玉県との県境稜線になる。北に伸びる稜線は、有馬山・蕨山を経て奥武蔵の稜線につながる。
県境稜線をさらに西へ進む。
塩地谷峰 10:10、日向沢峯の西側の肩のような位置で、気にならずに通過。
蕎麦粒山（1472.9m）10:30。蕎麦の実は側面がやや膨らんだ三角錐のような形をしている。この山の頂の形が蕎麦の実に似ていることから蕎麦粒山と名が付いたのだろう。南アルプスにも同名の山がある。
小休止で息を整えて 10:48 出発。
仙元峠東 11:10。仙元峠は 1390mのピークを持つ越路になっている。武蔵から秩父へ向かう三峰講と秩父から富士山へ向かう富士講がすれ違う峠道だった。峠には浅間神社の小さな祠がある。「仙元」は「水の源」を意味する言葉らしいが、峠の名前の由来には浅間信仰も関わっていると考えられる。

仙元峠西は 11：17。倉沢の頭を越えてしばらく進むと三つドッケの東側にある一杯水に 12：20 着。
長い下りに備えて昼食とする。日原から登ってきた東芝山岳部のパーティとすれ違った。
三つドッケは別名「天目山」（1576m）。「三つドッケ（ミツドッケ）」の語源は「三つ突起・三つの突剣」と言われているように、山頂に三つのピークがある。13：40　下山開始。ヨコスズ尾根を一気に東日原（618m）まで下る。滝入ノ峰（1310m）までは良かったが、日原の集落が真下に見えてからの急勾配には閉口した。
約二時間の下りで東日原に　15：45　到着。結局犬の「道徳くん」は、東日原の集落まで一緒に下山してきた。ここから先は同行不可能なので、駐在所まで連れて行ってお巡りさんの奥さんに訳を話して引き取っていただいた。戸の閉められた駐在所の中で彼が悲痛な泣き声で吠えながら、ジャンプをしてはガラス窓から我々の立ち去るのを眺めている。そして、ついには机に上ってガラス戸に前足をかけ、ガラスに顔を押し付けてもがいていた。その後この犬がどんな運命を辿ったのかはわからないが、何とも不思議な体験だった。
バスは満員で、氷川駅に 17：30 に到着。（45円）青梅線は 17：52 発、新宿駅に 19：30 に帰着した。
◆費用　電車＝400 円　バス＝45 円　お茶＝50 円　パン＝20 円　合計　515円

以上

＜蛇足＞
川苔山（かわのりやま）は、川乗山とも言う。国土地理院の資料によれば、正式な表記は 「川乗山」 である。沢筋で川苔が取れたことに由来するという説もあり、個人的には味わいのある 「川苔山」 という字が好きだ。左側の画像の小屋の右端に 「川苔小屋管理人」と書いてある。（小さくて見にくいが）

（修正・更新：2023 年 9 月）